

〈資料報告〉沼端ウメ 口述・和田文治郎 筆録

「貧しき子 媚選びの試験にパスして女を得る」

訳・註 北原次郎太

解説

本稿は、現在北海道立図書館が所蔵している知里真志保の遺稿の複製（以後「知里ノート」）の内、和田文治郎 [1898~1958] の筆録による口承文芸資料について報告するとともに、その中から説話一篇を書き起こし、訳出を試みるものである。

現在、「知里ノート」と呼ばれているものはアイヌ語学者知里真志保 [1909~1961] が生前に残した野帖やノート・日記などである。これらは知里の死後、散逸を防ぐために長女によってその他の蔵書類とともに北海道大学に寄付された。その後、生前、知里と親しかった研究者らによって「故知里博士遺稿整理保存会」（以後「保存会」）が作られ、整理・複製作業が進められるとともに、その一部が『分類アイヌ語辞典 動物篇』としてまとめられ 1962 年に出版されている。その後「知里ノート」がたどった経過は非常に複雑だったようであり、正確なことはわからない。ただ知里夫人であった萩中美枝氏によれば一度は北海道立図書館に収められたようである〔萩中 1972〕。現在では同館に原ノートは存在せず、ノート 260 部をマイクロフィルムの形で複製したものが所蔵されている。

これらの中には自筆ノートのほか、知里の母方の伯母にあたる金成マツ [1875~1961] の筆録したユーカラ・ノート、研究協力者であった佐々木弘太郎 [1923~1965] のノートとともに和田のノートが含まれている。

和田は第二次世界大戦中に樺太医学専門学校の教授をしていた耳鼻咽喉科の医師であったが、豊原高等女学校の教諭として赴任してきた知里との知遇をえてアイヌ語研究に興味を抱き、南樺太各地のアイヌ集落で調査を行なっていた¹。知里との連名で書かれた論文に見られるように、職業がら医療行為に関する聞き取りや薬用植物についての調査が中心であった〔和田 1941〕。が、次第にアイヌ語そのものへの関心が深まりピウスツキの筆録した樺太アイヌの説話を翻訳したほか〔和田 1943〕、口承文芸の採集にも努力が払われている。その成果は知里に提供され知里の著作中に発表されている²。

和田は終戦後樺太に残留しユジノサハリンスクで日本人病院勤務を命じられるなどして調査は中断せざるをえなかった。しかし、1947 年に北海道へ引揚げ後は土別保健所をかわきりに稚内、網走

¹ 和田と知里の交友に関しては和田完氏（和田の次男）、藤本英夫氏の著作等が詳しい。〔和田完 1999〕〔藤本 1970〕

² 〔金田一・知里 1948〕及び〔知里 1953〕。和田完氏によれば、和田が戦前に収集した資料は引き揚げ時にほとんどが失われたため〔和田完 1999〕、1943 年に北海道に帰っていた知里の手元にあつたもののみが残ったことになる。

などの保健所長歴任した結果、結核検診などの機会に道内へ引揚げていた口述者の幾人かと再会するところとなった。本稿で取り扱う資料はこの時期に筆録されたものである。

「知里ノート」中の和田資料は「保存会」の整理に従えばノートNo1、104、105、106、224 の 5 冊分であり、説話が中心となっている。説話にはNo.の付されたものがNo.3 からNo.19 まである(以後説話No.と呼ぶ)。その他No.のないもの、断片的なものも含めると総数 26 話にのぼる³。そのうち本編は、沼端ウメ⁴ (1895~?) が口述したもので、ノートNo.104 の説話No.9 にあたる。ノートの表紙には

「鵜城説話Ⅱ 和田文治郎 話者沼端ウメ 56才 横太鵜城アイヌ 北海道上川郡士別町堺通」と書かれている。筆録年月日は 1949 年 1 月 15 日になっている。沼端は戦前から和田のインフォーマントであり、終戦後北海道へ移住してからも和田に協力した。当時和田は土別の保健所に所長として勤務しており、同じく土別の引揚者住宅に住んでいた沼端から聞きとったものと思われる。和田文治郎の妻である和田ことの手記にも

「(前略)ウメさんはなかなかの語り手で主人は熱心にアイヌ語で、ザラ紙に筆記し、大部のものになっていました。」[和田こと 1983 : 46]

と当時の様子が書かれている。和田完氏宅にはこのザラ紙の野帖が残されており、内容もほぼ同じであることから、知里の手元にあったのは和田が清書したものと考えられる。この時期の資料は、知里の著作中に一篇だけが見られるのみである。[知里 1955 (1973 : 155 - 157, 189)]

本稿を執筆するにあたり多くの方々のお世話をになりました。沼端ウメ氏の資料を公表するにあたりお許しをいただいた遺族の方、貴重な資料を公表することを快くお許しいただいた和田完氏、和田氏への仲介を引き受けてくださったサッポロ堂書店の石原誠氏に御礼を申し上げます。

また、和田完氏には樺太時代の経緯、和田のアイヌ語研究の背景等について一文を御寄せいただきました。紙幅の都合から全文を掲載することはできませんでしたが、特に戦前の調査についてはほぼそのまま引用させていただきました。また野帖の内容、特にアイヌ語表記法についても重要な指摘が含まれていますが、これらは稿を改めて発表したいと思います。

また「知里ノート」のたどった経緯、当時の研究者の交友などについては秋野茂樹氏、田村将人氏に多大な御教示をいただきました。アイヌ語の表記、訳については丹菊逸治氏に相談にのっていただきました。記して御礼申し上げます。

³ 知里ノートには筆録者の書かれていないもの、ノートが破損して断片になっているものがあり、今後の調査で更に和田の資料が発見される可能性がある。

⁴ 南樺太西海岸北部泊居支庁鵜城郡鵜城村出身。なお、現在遺族の方は沼畠の字を使っているが、資料報告を目的としているので全て和田に従った。沼端氏の業績としては他に 1951 年の NHK の録音に参加し、神謡を口演している。

凡例

この話はノートNo104、「鶴城説話Ⅱ」に記録されている説話のうちの第2話目にあたり、6頁目から始まる。もとより手書きの原稿であるため筆録者以外には判読しがたい箇所が少なくないが、可能な限りノートに書かれた状態を尊重した。また、活字化にあたり以下の法則を立てて作業を行なった。

- ・表題は冒頭に書かれている和田がつけたと思われるものをそのまま使用した。
- ・原文の各行にNoをふり、ページNo一行Noの順に行頭に示した。
- ・アイヌ語の表記は原文どおりとし、必要に応じて解釈を註に示した。
- ・ノートには後から訂正を加えた箇所が多々見られる。二重線で消している所は [] を掛けてあらわし、アイヌ語・註などを新たに書き加えている部分は[]で括って示した。
- ・原文では句読点やカンマ、ピリオドなどが入り混じって使われているが、全てそのままとした。
- ・原文では cise と čise, nisipa と nišpa, yayne と jaine など2通りの表記が見られる子音があるが全て原文に従った。
- ・原文では長母音と思われる母音の右上に ' を付けていたが、他の記号と混乱をきたすのを避けるため、全て : に換えた。例 pu' →pu: <puu
- ・本文の訳出に際しては和田が他の説話につけた訳や、知里の著作及びノート中の語彙調査等を参考している。

本文

- 6- 1 shine kotan oxta sine wen-wen čoka⁵ hekači ある村に大変貧しい子供が
6- 2 jajresike manu. manuike soyta asipan ka 1人で暮らしていた。外に出も
6- 3 hanki, čoxta⁶ patex anhi. せず、家にばかりいた。
6- 4 saxsi ne:no (昆布みたいな) wen hoxto (きた 昆布のような汚い着物
　　ない着物)
6- 5 tax patex [an]mi te okayan. cise onnayke ばかりを着ていた。家のなか (から)
6- 6 pisikay[e]ne [an] nukara yaxka ne:ranpe まわりを見ても何もなかった。
　　ka isam.
6- 7 tay sine to:soyta asipanike cise-samaketa ある日、外に出ると家の傍に
6- 8 poropu:an. [kusu] oxta tuxsekanne rikpan 大きな倉があったので、そこにとび

⁵ 不明。「同族の・自製の」というような意味だろうか。なお、知里が記録した沼端の語彙に tjoka tuss <coka rus 「ぼろ」というものがある。[知里 1950(?) : 36]

⁶ <ce(cise) ohta

- manu.
- 6- 9 pu:-apaha [an] čaxke anukarako čex-saxke⁷
- 6- 10 poronno okayaxči . o:sampe⁸ kimoiki ku:-he
- 6- 11 kayki okay. joma kayki okayaxči.
- 6- 12 ke tani cex-saxke na: ataci⁹ na:
- 6- 13 ampene okayaxči kusu anampa wa rapan.
- 6- 14 ěise oxta antura te ahupan.
- 6- 15 orowa poro unzi wa:re¹⁰、čex saxke karaha.
- 6- 16 ataxči tani sanke poronno ipe an manu.
- 6- 17 nete、suy pu: oxta riki[pa]n 、ke:-o-pise
- 6- 18 kayki anraxke、antura ran wa čise
- 6- 19 oxta anampa wa ahupan.
- 6- 20 tani ohaw ankara te、tani ke: kopoye.
- 6- 21 poronno ipe an manu.
- 6- 22 kesitasinko¹² honi sisite¹³ kanne ipe an.
- 6- 23 sineto、ke:、suy pu:oxta rikipan.
- 6- 24 nete、ma : re¹⁴ kayki anux te rapan.
- 6- 25 cexkoiki kusu nay oxta omanan.
- あがった。
- 倉の戸を開けて見ると、干し魚がたくさんあった。山獵に使う弓もあった。槍もあった。
- そして干し魚もアタチもたくさんあったので、持つて降りた。家に持つて入った。
- それから、大きな火を焚いて干し魚を料理した。
- アタチも下ろしてきて、たくさん食べた。
- そして、また倉に上つて油が詰まつた容器¹¹も吊るしてあって、持つて降りて家に入った。
- 今度はお汁を作つて油を混ぜて、たくさん食べた。
- 毎日腹いっぱいになるほど食べた。
- ある日、また倉に上つた。
- そして、マレヘをとつて降りた。
- 魚を捕りに川へ行つた。

⁷和田家に残つてゐるザラ紙の野帖には、cexsaxpe と cexsaxke の両方が見られる。筆記体による走り書きのため、p と k の区別がほとんどつかず、和田が清書の段階で書き損じたものと思われる。sahpe とは マス・サケなどを、尾だけをつなげたまま数枚におろして作る保存食用の干し魚。部位別に sahpe (外側の皮がついた部分)、mahkuru (皮も骨も取つた身だけの部分) などいくつかの呼称があるが、後出の ataci との使い分けなど不明。[北原ほか 2000] なお、沼端氏と同じ鶴城出身の T・S 氏は ataci を、燻製にしたものではないかと話している。[北原 2001: 52] また、知里の白浜での調査によれば、sahpe がマス、ataci がサケを干したものとも考えられ、mahkuru の説明も異なつてゐる [知里・山本 1973: 55-65] が詳細は今後の課題としたい。

⁸ 不明。

⁹ 註 1 参照。北海道方言では干し魚の総称。

¹⁰ <uaare

¹¹ トドなどの胃袋を膨らませて乾燥し、食用油を貯蔵する容器。

¹² <kestoasinkoh

¹³ <siste

¹⁴ <maareh 魚を突いてとる鉤鉈。北海道でいう marek。

- 6- 26 tani čex kayki, poro ohonto (大きな魚のたば)
 6- 27 anrayki, sike ankara te cise oxta
 6- 28 anse, wa sapan. tani cise onnaykehe
 6- 29 cex-ohontoho antura ahupan.
- 7- 1 tani čex-karakusu pooro su: aysanke,
 suke orowa
- 7- 2 ajjanke wa poronno ipe an manu.
- 7- 3 suy pu: oxta rikipan tanpaku anunara,
- 7- 4 o:sompe-komo sine komo¹⁵ anciki, ajpitata
- 7- 5 cise oxta anampa te rapan. tani poro
 konkori¹⁶.
- 7- 6 ankara te iku an, kuxtoka an te iku kanne
- 7- 7 yaykoanpa:kari. kimta makapan o:ka,
- 7- 8 ne: toko-kamuy¹⁷ an-hunara čiki pirka nana.
- 7- 9 simkehe paykiante kimta makapan oka .”
- 7- 10 puy onne patex inkara.
- 7- 11 tani sisto:no tuxse kanne asipan te
 pu: oxta rikipan
- 7- 12 o:sampe toko-kamuy na: koyki eiwanke situ,
- 7- 13 ku: anampa čise oxta rapan.
- 7- 14 tani čex-saxke, atači sikehe tani tarax ani
- 7- 15 antasikote, tasiko hemaka te [ay-] se,sito
 [an-] usite¹⁸
- 今や魚も大きな束 (になるほど)
 捕って、荷物にまとめて家に
 背負って帰った。家の中に
 魚の束を持って入った。
 魚を料理するために大鍋を出した。
 料理をして
 (鍋を) あげて、たくさん食べた。
 また倉に上り、煙草を探した。
 ひと塊になったものがあったので
 ほどいて
 持って家に降りた。今度は大きな
 葉巻を
 作って吸った。仰向けになって煙草
 を吸いながら
 考え込んだ。「山に登りたいなあ。
 大熊を探したいなあ。
 明日、起きたら山に登りたいなあ。」
 と窓の方ばかりを見ていた。
 朝になって、とび跳ねながら
 外に出て倉に上った。
 大熊をも獲るのに使うスキーと
 弓を持って家に降りた。
 干し魚、アタチを荷縄で
 束ねて、束ね終えて背負い、スキー
 を履いて

¹⁵ 不明。sine komo とあることから、komo は単位にもなるようである。

¹⁶ 不明。konkori は一般には小型のアザラシを指すが、知里の語彙調査[知里 1950(?)]には「葉巻・借用語?」とある。

¹⁷ toko については不明だが、tuko (松脂) [久保寺 1992 : 280], roko (松脂) [知里 1976 (1953) : 281] と関係があると思われる。知里の資料中には「Esaman carahau」と題されたカワウソの怪物の話がある。そこではカワウソを描写するのに次のような表現が使われている。「ne nito:pa:ki-imy anpeni roko cikopoe makiri ka poso hanki. (その体は松脂と毛が入り混じって固まり、小刀も通らない:訳 筆者)」[知里 1943] 文中の tokokamuy もこのように (怪物とは限らないが) 松脂で体をおおった熊のことではないか。

- 7- 16 hekimo makapan. 山に登った。
- 7- 17 " orinni utoxtonke poka kemasuye wa オリンニウトホトンケボカ
ケマスイエワ
- 7- 18 oranni kasikepo:ka kemasuye wa cokokoxke, オランニカシケボカケマスイエワ
- 7- 19 [osimakewa numa]upunihi okakewa ru ampe an." ウブニヒオカケワルアンペアン
- 7- 20 na: kiwa makan. makapanike, と登った。登って
- 7- 21 poro tokokamuy tani an nukara, ku: ani 大きな大熊を見つけて、弓で
- 7- 22 ančoxka tani raykusu karaike jomani 射た。今にも死にそうなので槍で
- 7- 23 an čiwmanu. tani ha:re, makiri, poromakiri 突いて倒した。大きな小刀
- 7- 24 anampa kamuy anrie, kamihi oko:re ayse: で、熊を解体した。肉を背負って
- 7- 25 orowano sapan. それから降りてきた。
- 7-26 orinne utoxtonkepoka kemasuye wa オリンニウトホトンケボカケマ
スイエワ
- 7-27 oranini kasikepoka kemasuye wa オランニカシケボカケマスイエワ
- 7-28 upunihi okakewa ruanpe an ウブニヒオカケワルアンペアン
- 7- 29 naxkiwa cise oxta sapan. と、家に降りてきた。
- 7- 30 orowa tokokamuy kamihi aysuke それから大熊の肉を炊いて
- 8- 1 kesipasinko an e: manu. 毎年食べた。
- 8- 2 tani maxteku ram ka ankoro¹⁸. taysinetō, そうして今や年頃になった。ある日、
ne:ta kotan 「どこかの村
- 8- 3 oxta ka (axkasiromanwa annukars o:ka.) に行きたいなあ！
- [payean o:ka !]
- 8- 4 aynusirika čikaxsiri ka nukara ka hanki. tan 人の姿も、鳥の姿も見たことがな
い。」
- 8- 5 tay sineto suy poro konkori kara te ある日、また大きな葉巻を作
otanne~²⁰tomam って胴の長い
- 8- 6 kiseri oxta anamate an ku:. kuxtoko-an kanne 煙管に詰めて吸った。仰向けに寝

¹⁸ 浅井タケ(南樺太北西海岸小田州出身)の例では、situ'us で1語となり、スキーですべる行為をも含んでいると解釈できる場合もある。[浅井タケ 1999b : 165-170,243-252]

¹⁹ 話話No17中の同様の部分に和田が註を添えている。「maxteku ramkoro 女心もつは女が欲しい意で男の思春期だと沼端氏云う。従って女が色気つくこと oxkayo ram koro である。恐らく異性を思う心を持つの意なるべし。」[和田 1949a]

²⁰ 前後入れ替えの記号。これに従えば tomam otanne となる。

- 8- 7 iku an manu. simmane: čiki kunne orowa
aynu-koro-kotan
- 8- 8 omanika reusi. simkehke onne omananoka,
nax anpaxkari.
- 8- 9 kunne orowa ipe-suke anki te ipe-hemakate
suy
- 8- 10 sitousi te omanan manu.
- 8- 11 imi kayki saxcineno wen-čoka imihe anmite
- 8- 12 payeanmanu. pirika imihe nečiki komo-oxta
- 8- 13 anama wa ayse: te omanan.
- 8- 14 " orinne utoxtonkepoka kemasuyewa
- 8- 15 oranni kasikepoka kemasuye wa
- 8- 16 upunihi okakewa ru:ampean.
- 8- 17 na^{ki} te čoxčoko osimake wa situ upunihi
- 8- 18 ru ampe an."
- 8- 19 naxkiwa makapan. [iwanto] makapayayne,
- 8- 20 sine mayko kitaketa sine poro cise an
- 8- 21 annukarajina tani sine kotan aneosima.
- 8- 22 kotan nosketa sine poro cise, mosirikamuy-
- 8- 23 cisehe an manu. cise samaketa omanan
- 8- 24 manu.
- 8- 25 situ aysitayki, ja situ sita situ tata:
situhe
- 8- 26 opasi tuy-tuye. (すきーの雪を打ち落とすことか)
- 9- 1 situ aysitayki manuike mosiri-kamuy seta,
- 9- 2 no:-seta mex²¹ manu.
- 9- 3 " nupuru čextuytape ex wa: na
- ながら 煙草を吸った。「明日になったら 暗いうちから、人間の村に 他所に行きたいなあ」と 思った。 暗いうちから食事を作つて、食べ 終えてからまた スキーを履いて出かけた。 服も昆布みたいなボロを着て 出かけた。いい着物は皮袋に入れて、背負つて出かけた。 オリンネウトホトンケポカ ケマスイエワ オランニカシケポカケマスイエワ ウブニヒオカケワルアンペアン チョチョコオシマケワシトウ ウブニヒ ルアンペアン と、6日間登り続けると 今、1つの村に行き当たつた。 村の真中に1軒の大きな家、国の神の家があった。家の側に行って スキーを叩いた。叩いてスキーの 雪を払つた。 スキーを叩いたら、国の神の犬が 橋犬が吠えた。 「巫術で名高い者が来たぞ」

²¹ <mix

- 9- 4 me: ka wo wo wo ウォーウォーウォー
- 9- 5 očonočon [očonihi (育ての翁よとの呼声)]nupuro 育ての翁よ巫術で
- če:tuytaxpe e wa na 名高い者が来たぞ
- 9- 6 wo wo wo: ” (註 Nupuruaynu 来たと云うこと) ウォーウォーウォー”
- 9- 7 čiseonnaykehe orowa sine usiw-maxteku 家の中から 1 人の召使女が
- 9- 8 kiyarax te kusu asin 様子を見に出されて
- 9- 9 ” ku:-no:-seta emexkusuan, hemata 「私の櫻犬吠えている。何か
- 9- 10 aynuka ekihi ne he,e-asin wa enukara yan.” 人でも来たのか、お前出て見てく
れ。」
- 9- 11 nax čise- kor-nispa itakihi annu. と家の主人が言うのが聞こえた。
- 9- 12 usiwnex asipan jaxka[nexka] aynu kuru 召使が出てきたが、人影も何も見
えな
- 9- 13 isam kusu kemaha kasiketa okoyse wa ahun いので、(私の)足に小便をして家
に入った。
- 9- 14 manu.
- 9- 15 suy seta mex ” nupuru če:tuytaxpe また犬が吠えた。「巫術で名高い者
が来たよ ウォーウォーウォー
- 9- 16 ex wa wo wo wo. 育ての翁よ、巫術で名高い者が来た
ウォーウォーウォー”
- 9- 17 očon očon nupuru če:tuytaxpe ex wa また 1 人召使女が出て、また
- 9- 18 wo wo wo: 下から上から眺めまわした。
- 9- 19 suysine usiwmaxteku asin. suy 人影も見えないので、(私の)足
- 9- 20 heraax inkara heriko inkara. に小便をして入っていった。
- 9- 21 aynu kuru ka isam kusu ,kemaha 櫻犬がまた吠えに吠えるので
- 9- 22 kasiketa okoysewa ahun 家の主人が「木幣の間で育てた
- 9- 23 no:-seta ramma w mexmex kusu 娘よ、お前が出て見ておくれ」
- 9- 24 čise-konnispa ” inawtumketa ku-resike 今度は、神々しい娘が戸を開け、
- 9- 25 maxpo²² easin wa nukara yan” 前室を通って出てきた。見ると
- 9- 26 tani kamuy pon maxpo, apacaxke 貧しい子供が 1 人、家の側に
- 9- 27 mosem eposo asin. nukaraike, 立っている。
- 9- 28 sinewenčoka-hekaci cise-samketa 足の方から見上げ、
- 9- 29 etaraxsi kusu an.
- 9- 30 kemaha orowa nukara wa rikin

- 10-1 kuxkursikehe²³ paxno nukara wa rikin ,nete
 帯の所まで見上げ、それから
 10-2 ay-sapaha orowa ranke , kuxkursikehe
 頭の方から帯の所(まで)
 10-3 nukara wa ranke , cise oxta ahun.
 見下ろし、家に入った。
 10-4 ahun manuiken hakahkapone(ひそひそと)itax
 入ってからひそひそと話していた。
 manu.
 10-5 " sine oxkayo soyta an kusuan ".
 「1人の若者が外にいる。」
 10-6 čisekoronispa itax." どこのお方が知らないが ???²⁴
 家の主人が言った。「どこのお方が
 知らないが
 10-7 通しするが良い "" nean aynuhe anahunke yara "
 お通しするが良い。その人を入れな
 さい。」
 10-8 nete nea pon maxpo suy asinike,i-ahunkeike,
 そして、その娘がまた出てきて私
 を中にいれて
 10-9 ahupan manu. ahupan wa inkara anko
 家に入った。入って見ると
 10-10 poročise roruso:kehe nisipa²⁵utax sisite
 大きな家の上座の所に、首領
 kanne
 達がひしめいて
 10-11 urox te okayaxči. harikeiso:wa nisipautax
 座っていた。下座の方に首領達
 10-12 ciurenkare. a:kesipaxno nisipautax urox te
 が居並び、火尻座まで並んで
 10-13 ciurenkare.
 座っていた。
 10-14 čise koro nišpa [usiwneutax] oxta jemanu.
 家の主人が召使達に言った。
 10-15 " ica ica ica! urukun oxta a:re a:re yan."
 「汚い汚い! 土間に座らせなさい。」
 10-16 saxsine:no hoxto imi mi-aynu, ica ica ica!
 「昆布みたいな服を着た奴だ。汚い
 汚い！」(と言って)
 10-17 urukuy oxta a:re manu. anoka re:ko ocis
 土間に座らせた。私はとてもくやし
 kusuan
 かった。
 10-18 manu. pisikan kotan nisipautax mina ani
 近隣の村の首領達は笑いなが
 ら
 10-19 ukoitakaxci manu. annike ociš kusu
 話し合っていた。くやしいので

²² 不明。屋内の上座にある木幣の側で育てたということか。

²³ 分類アイヌ語辞典の「§322.こし」の項に「kuxkurusike [(中略) 帯をしめる所]《マオカ》【雅】」
とある。[知里 1975:169] あるいは帯止めの kutkurukesi だろうか。

²⁴ 判読不能

²⁵ 和田の訳語による。nisipa は必ずしも集団のリーダーを指さず、「立派な男」或いは単に「男」と
訳した方がいいように思える場合もあるが、ここでは和田に従った。

- 10-20 hačikono yaykara te okayan.
10-21 tani cise-koro-maxneku payki manuike,
oj²⁶-an~
10-22 čikaripe kara manu 。 manuike nispautax
10-23 animex karaxsi ~~anibereksi~~. roruso:
čiurenkare
10-24 harikiso čiurenkare nisipautax iperexči.
10-25 cisekoro-nisipa je manu " tara wenčoka-
10-26 hekači oxta čituykiro²⁷ onne ipe oro: te
10-27 ipere yan "
10-28 tampe renkayne ipe čituykiro onne ama te
10-29 iko-kara, anoka nambe ta nosikehe patek

10-30 ipe an manu.
11- 1 ipe-hemakate,ke! nispa-henke " tanto,simma
11- 2 nisaxta orowa, anokay haciko orowa kotan-
11- 3 osimake ~~ea~~ ean to: nosiketa
suma-čisipo (石がけ)
11- 4 an.ta-kitayketa umure čikax,konkani-čikax

11- 5 sirokanečikax okayan manu.
11- 6 tani uxte ampa te san-aynu oxta ,inawtumta

11- 7 ku-resike maxpoho konde kusu iki.
11- 8 nax iye manu. teorowano aynu nispautax
11- 9 okore mokoro hemaka. orowa okaketa

11-10 payki ante itanki oxta pirikasonapi
an²⁸kara te
- 小さくなっていた。
今度は家の主婦が起きて数々の
料理を作った。そして首領達
に振舞った。上座と、

下座に居並ぶ首領達に食べさせた。
家の主人が言った。「あの貧しい
子供にも靴に食事を盛って
食べさせなさい」
そう言ったから靴に食事を盛って
私に出した。私は（靴についていな
い）真中だけを
食べていた。
食べ終えて、老人が「明日の
朝から、私が小さい頃から村の
背後にある沼の真中に石の崖が

ある。その頂上につがいの鳥、金の
鳥
銀の鳥がいる。
今度、それを捕らえて持ってきた者
に、木幣の間で
育てた娘を与えよう。」
と言った。それから、首領達は
みな眠ってしまった。
(少女が語る)その後で
起きて、お椀にご馳走を入れて

²⁶oy-an- cikaripe 数々の料理[和田 1949a : 47]

²⁷不明。<ci-tuye 「破れた」ということか。

²⁸ここから誰の叙述であるのかがわからなくなる。食事をしている男とは主人公の少年であると思わ

11-11 anko:re, oxkayo ukiye e: hemaka te sine

渡した。男は受け取って食べ終え

11-12 ečipe²⁹ paxno iko ka:na ja:xka an ukiye
ane:³⁰.

て、ひと匙ほど私に勧めるので、
受け取って食べた。

11-13 orowa itanki anomare orowa mokoro an.

それからお椀をしまって、眠った。

11-14 tani sisto:no ehanke, nispautax oxfordore

今や夜明けが近付き、首領達はみな
出かけた。貧しい子供は

11-15 makan manu. wen-wen čoka-hekaci

胸の中で考えた。もう夜が明け

11-16 ram oxta pakari manu. tani sišto:no

きって、外に出た。スキーを下ろし
て履き、

11-17 hemakate asin. situhe ranke tani uxte

山を登った。

11-18 makan.

オリンニウトホトンケポカケマス
イエワ

11-19 orinni utoxtomkepoka kemasuyewa

オランニカシケポカケマスイエワ

11-20 oranni kasikepoka kemasuyewa

チョコチョコ オシマケワ

11-21 čoko: čoko:osimake wa

シトゥウブニヒルアンペアン

11-22 situ upunihi ru ampe an

と歌って登った。男達の足跡を
たどって登った。

11-23 nax ki te makan. nisipautax ru-okaketa

登って行くうちに、見ると

11-24 makapan.

まだ、登って？？もせずに

11-25 makapayayne inkara anko

登った。

11-26 na: makapaxci ankoineka³¹ hanki

それから大きな沼、村の裏手にある
大きな沼の真中に

11-27 makapan.

石の崖がそびえていた。崖の頂上に

12- 1 orowa poro to:, kotanosimaketa an poroto:

今度、私のスキーを出して、置いて
崖の尾根の所に置いた。ノミに

nosiketa

姿を変えて登って行った。

12- 2 sumacisipu hotari an. cisipo kitayke ta

神の鳥達、金の鳥、銀の鳥

12- 3 tani ay-situhu anasinke te , anama te,

の所に登った。つがいの鳥の首をひ

12- 4 čisipu situketa anama te , tay-ki(のみ虫) ne

12- 5 yaykara ante rikipan.

12- 6 kamuyčikaxutax,konkani-čikax,sirokani-čikax,

12- 7 oxta rikipan. umure čikax rekučihi annoye

れるので、文脈から推測して配膳をしているのは「神々しい少女」であろうか。

²⁹ <ecipeh 食事用の薄い籠。匙。

³⁰一つの椀を婚約する男女が半分ずつ食べる、儀礼的な食事に当たるのだろうか？

- | | |
|---|--|
| okore an- | ねって、全て |
| 12- 8 rayki ,nete anampa wa rapan. neteorowa tani | 殺した。そして持つて降りた。そして今度は |
| 12- 9 aynu ne yaykaraan, tani ayse:te sapan. | 人の姿になって、背負つて降りた。 |
| 12-10 suy. orinni utom[x]tomkepoka kemasuje wa | また、オリンニウトホトンケポカ
ケマスイエワ |
| 12-11 oranni kasikepoka kemasuyewa | オランニカシケポカケマスイエワ |
| 12-12 coko-čoxko osimakewa situ-upunihi | チヨコチヨコオシマケワシトウ
ウプニヒ |
| 12-13 ruampean | ルアンペアン |
| 12-14 na: ki te sapan manu. | と歌つて降りた。 |
| 12-15 kamuy čise inawsamke ta sikehe anočiwe, | 神の家の木幣の側に荷物を放つて |
| 12-16 cise ka kotunatunax. orowa aysituhe | 家が揺れた。それから私のスキーを |
| 12-17 raxkay orowa sananax a anaxte ahupan. | 屋根の端から下げるて、家に入った。 |
| 12-18 suj urukun oxta rokan manu. | また、土間に座つた。 |
| 12-19 orowa sine nisipa [hoynu ampawa] ahun.
suy sumari- | それから1人の男がテンを持って
入ってきた。また狐を
持つた男が入ってきた。 |
| 12-20 ampa aynu ahun. | ライチョウを持つた男が入つてき
た。 |
| 12-21 poririw(鳥の名)kiki?)[山とり] ampa-aynu ahun | リスを持つた男が入つてき
た。 |
| 12-22 roxse ; ; ; | ウサギを持つた男が入つてき
た。 |
| 12-23 osike ; ; ; | フクロウを持つた男が入つてき
た。 |
| 12-24 eturusu ; ; ; | 今や、家中がいっぱいになつた。 |
| 12-25 tani cise sistekanne okayaxči. | 家の主婦がご馳走を作り、お椀に |
| 12-26 cisekoro-kaxkema cikaripe kara te ,
itanki kasike ta | いっぱいに盛り付けて、首領達が居
並んだ。 |
| 12-27 sisiteno amaxči te nisipa utax čiurenkare, | 家の主人が食べながら言った。 |
| 12-28 cisekoro-nispa ipe-kanne ye manu. | 「誰がつがいの鳥を持って来たの
だ？」 |
| 12-29 " tani umurexčikax na:ta ampa wa sanih? | |

31 不明。

- 12-30 nax ipisi yaxka ne:aynu haw kayki isam.
- 13- 1 ra:poketa ipexči kusu okayaxči
- 13- 2 tani nisipa ikoipisi manu.” hekači
eani kamuy
- 13- 3 čikax ~~banks~~ ampa? [e ampa e-sanihi?] ”
- 13- 4 ” kamuy cikax anampa te sapan.
cise osimake -inaw-
- 13- 5 samke ta anama ” nax ay-ye.
- 13- 6 cisekoro-nispa-henke ” tani waxsi sonno
- 13- 7 anokox , inawtumketa anresike maxpo tani
- 13- 8 anekonde kusuiki” kannsuy oya hecire³²
na: an.
- 13- 9 husikorowa anuka³³ kamuykoiki-ku:,
- 13-10 ta re-rukumne kaye aynu (三つに折る人) ančiki
- 13-11 inawtumke ta resike ku-maxpo
ku-konde kumpe!
- 13-12 sine oxkayo pu: oxta rikin, ku:he ampa
wa pu:
- 13-13 orowa ran.
- 13-14 tani nisipautax ku: hekem yaxka koya:kus.
- 13-15 suy sine nispa ko:rexci suy hekem yaxka
koya:kus.
- 13-16 čise sisteka aynu oxkore koyakusi.
- 13-17 tani wen-wen hekači ko:re ekemike re-
- 13-18 rukum ne kay te , sine rukumihi cise-koro-
- 13-19 henke ečoxča-kara,sine rukumihi cise-koro-
- 13-20 axči ečoxčakara,sine rukumihi usiwhe ečoxča-
- 13-21 kara.

と尋ねたが誰も声も出さない。
その間にも食べ続けていた。
今度は主人が私に聞いた。「子供
よ、お前は神の
鳥を持って来たか？」
「神の鳥を持って来たよ。
家の裏の木幣
の側に置いたよ」と私は言った。
家の主人の翁は「今こそ本当に
私の木幣の間で育てた娘を
与えよう。(その前に) また、別の
戯れがあるのだ。
昔から私が熊獲りに使っている弓
を
3本に折れる者があったら
木幣の間で育てた私の娘を与えるぞ。」
1人の若者が倉に上って、
弓を持って
降りた。
首領達が弓を引いたがだめだった。
また1人の首領に渡し、また引いた
がだめだった。
家中の男達はみなだめだった。
今度は貧しい子供に渡して引かせ
ると3本の
棒に折れて、1本は家の主人の
老人に当たった。1本は家の
老婆に当たった。1本は召使に
当たった。

³²この場合、試験のことか。

³³<anoka

- 13-22 cisekor-henke ke! taniwas sonno koko!
- 家の主人の翁は「今こそ本当に婿にしよう！」
- 13-23 inawtumketa anresike-maxpo eči-konde kumpe,
- 木幣の間で育てた娘を与えようぞ。」
- 13-24 pisikan kotan nisipautax okore
yaykoiraykixte
- 近隣の村の首領達はみな恥じ入つて
- 13-25 asipaxči manu.
- 出て行った。
- 13-26 pisikan kotan nisipautax ,asipaxči kun
- 近隣の村の首領達は、出ようとする前に「先に我々が出かけたのに
- 13-27 etokota ” hosikikanne ankoaxkasi yaxka,
- 後から来た貧しい子供が女を手に入れてしまった。
- 13-28 ijoponi ex wenčoka-hekači maxteku
koro hemaka.
- 我々は恥ずかしい。」
- 14-1 anokajaxči aneyaykoirayki, ”
- 今やみな帰った。
- 14-2 tani oxkore hosipixči manu.
- 今度は水を沸かして風呂を入れ、大釜
- 14-3 tani waxka sesexkanne huru³⁴-kara wa,
poro kama
- に湯をわかして、子供を洗った。
- 14-4 yu sesexka tani hekači hurayexči,
usiwutax
- 召使達は
- 14-5 uča utemkote³⁵ hekači hurayexči ,
konkanemakiri
- 丁寧に(?)子供を洗った。金の小刀
- 14-6 ani kerekerečite, sirokane makiri ani
- で髪を剃り、銀の小刀で
- 14-7 kerekerexi , tani hemaka . tani hekota
- 髪を剃った。今度はそこへ
- 14-8 yaykota ampa imihe asinkete mie,
- 自分で持ってきた着物を出して着せた。
- 14-9 konkani sirikoro³⁶ imi,sirokane sirikoro imi
- 金の模様、銀の模様の入った着物、
- 14-10 konkani kuxpusa koro,sirokani kuxpusa koro,
- 金の帯房、銀の帯房を着け
- 14-11 ta kotankoro nisipa kamuynisipa axkari
- 村長、神なる村長よりも
- 14-12 nisipa enean imike koro an ko,
- 長者かくありという装いをさせた。
- 14-13 asinnoorowa pirikano iwantereanax
- 「これからは、よく解からせ(?)
- 14-14 urukunoxta ka haneka ana:re kusu neya!
- けして土間に座らせようものか！」

³⁴ 不明。風呂のことか。

³⁵ 不明。丁寧にというようなことか。

³⁶ <siriki-oro-o 「模様をそこに入れた」ということか。

- 14-15 čietuy kiro ka hannexka anoipere kumpe.
- 14-16 cisekorō nišpa yaynitom³⁷ ruroso:ta an ea:re.
- 14-17 oxkayo onne pirika sanapi anama wa ane:re
- 14-18 kusu ne ya !
- 14-19 tani wa:s sonno koko. an maxpo ane konde.
- 14-20 ta kotan oxta nisipa čiseleč osimaketa
- 14-21 poro čise, kamuycise ankara te oxta an.
- 14-22 axkari nisipa ne manu.
- 14-23 orowa tani hekači nupuru ne wa exčikax
- 14-24 ta hekači kotan oxta axkari oman ka hanki.³⁸
- 14-25 oxkore cikax hečiri ,
- 14-26 nax uepekerehi an , hemaka !

けして靴でなど食事をさせまい。
家の主人らしく、上座に座らせ
この若者にご馳走を据えて食べさせよう！
今こそ私の娘を与える。」
それから村の、首領の家の裏に
大きな家、神々しい家を作つてそこに暮らした。
それ(前の村長)以上に首領になつた。
それから今度、その少年を慕つて
(?) 飛んで来た鳥も
その子供の村を越えてどこかへ行くことはなかつた。
鳥達はみな遊んだ。
という言い伝えがある。終わり！

(きたはら じろうた 千葉大学大学院文学研究科)

参考文献

浅井タケ（村崎恭子編訳）

- 1999a 『浅井タケ昔話全集Ⅰ』私家版。
1999b 『浅井タケ昔話全集Ⅱ』私家版。

金田一京助・知里真志保

- 1948 『りくんべつの翁』彰考書院 権太篇のみ知里 1973a 再録。

久保寺逸彦編

- 1992 『アイヌ語・日本語辞典稿』北海道教育委員会。

知里真志保

³⁷ 不明。

³⁸ この部分の意味は不明だが、浅井タケの説話に見られるような物語の終わりの定型表現かもしれない。[浅井ほか 1999a·b]

- 1943 「Esaman carahau」未発表資料『知里真志保遺稿ノート』No2 (北海道立図書館所蔵)。
- 1950(?) 『知里真志保遺稿ノート』No218 (北海道立図書館所蔵)。
- 1953 「樺太アイヌの神謡」『北方文化研究報告』8 北海道大学。
- 1973a (1944) 「樺太アイヌの説話（一）」『知里真志保著作集』1 平凡社。
- 1975 (1954) 『分類アイヌ語辞典 人間篇』『知里真志保著作集 別巻II』平凡社。
- 1976 (1953・1962) 『分類アイヌ語辞典 植物篇・動物篇』『知里真志保著作集 別巻I』平凡社。

知里真志保・山本祐弘(利雄)

- 1973 「樺太アイヌの生活」『知里真志保著作集』3 平凡社。

知里真志保・和田文治郎

- 1943 「樺太アイヌ語における人体関係名彙」『樺太庁博物館報告』5-1 樺太豊原市。

萩中美枝

- 1972 「アイヌアナクネピリカ－知里真志保の残したノートー」『北方文芸』昭和47年2月号。

藤本英夫

- 1970 『天才アイヌ人学者の生涯 知里真志保評伝』講談社。

湊正雄

- 1982 『アイヌ民族誌と知里真志保さんの思い出』築地書館。

和田完

- 1999 (編著) 『サハリン・アイヌの熊祭り ピウスツキの論文を中心に』第一書房。

和田こと

- 1983 『走馬燈』明玄書房。

和田文治郎

- 1941 「樺太アイヌの『なぐし』物語」『樺太時報』50 豊原。

- 1943 「アイヌ言語、説話研究資料」『北方日本』。

- 1949a 「鶴城説話I」未発表資料『知里真志保遺稿ノート』No.106 (北海道立図書館所蔵)。

- 1949b 「鶴城説話II」未発表資料『知里真志保遺稿ノート』No.104 同上

- 1949c 「鶴城説話III」未発表資料『知里真志保遺稿ノート』No.1 同上

- 年代不詳 未発表資料『知里真志保遺稿ノート』No.105 同上

- 年代不詳 未発表資料『知里真志保遺稿ノート』No.224 同上